

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770902555
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホーム おだやか高槻松ヶ丘
訪問調査日	平成 20 年 7 月 3 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 7 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770902555
法人名	株式会社 おだやか
事業所名	グループホームおだやか高槻松ヶ丘
所在地	高槻市松ヶ丘一丁目9番3号 (電話) 072-687-8550

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年7月3日	評価確定日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	27 人	常勤	5 人, 非常勤 22 人, 常勤換算 8.

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(294,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,790	円	

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 72.5 歳	最低	57 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかじま診療所	啓友クリニック
---------	---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当施設は平成18年3月1日にJR高槻駅から北へバスで10分のところに、法人の3番目のホームとして設立された2ユニットのホームである。外観がとてもおしゃれなパステル調で、季節の草花に囲まれた門から建物の中に入ると、やすらぎの場が提供されていると感じる、スタッフの笑顔に迎えられる。開設当初から家庭的な環境と地域住民との関係性を重視したサービスを方針として、地域の情報収集に積極的に取り組み行事などに参加している。管理者は「利用者、職員は施設の宝」という思いを強く持ちながら、共にあかるく、楽しく暮らせるホーム作りをめざしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は「食事を楽しむことの出来る支援」と「継続的な研修の受講」を改善課題とした。その後、職員と利用者は同じ食事を一緒に楽しく食べるように改善した。また、事業所は職員が外部研修に参加し易いように費用の一部負担をする等の支援策を始めたが、まだ職員の各段階に応じての育成とまでは実現していない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はサービス評価の意義と目的を職員に説明している。自己評価は職員の意見を出し合いながらサービスの向上に向けて全職員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2、3ヶ月に一回開催されて利用者、家族、市包括センター、民生員、職員の参加で行われている。事業所からはホームの行事や支援内容などを話し、自己評価の内容、外部評価の結果を報告している。家族からの意見や要望は今後のサービスに活かすように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に「おだやか通信」を発行して、利用者の生活の様子、金銭出納、運営推進会議の内容を報告している。家族の来訪の際には出来るだけ多くの情報提供をするように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の散歩や買い物の際に地域の方とは気持ちよい挨拶を交わし、地域の清掃や避難訓練、祭りなどに積極的に参加している。今後は、地域の子どもの登下校時の見守りへの参加も考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は利用者のニーズ、事業所の状況の特性を活かした一人一人の生活を大切に事業所独自の理念を作りあげているが、地域密着の概念が表現できていない。	○	一度作った理念のままでなく、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を理念の表現に加えることが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の中身を共有し、利用者の意思と人権を尊重して地域と共存していく事を目指して、日々のミーティング等の話し合いで確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩や買い物などで地域の人とよく挨拶を交わし顔なじみになっている。自治会の溝掃除や避難訓練、地域の催物等には積極的に参加するよう取り組んでいる。今後は子ども見守り隊への参加も考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を全職員に説明している。自己評価は職員の意見を聞くなどしてみんなで取り組んだ。外部評価の結果はミーティングなどで話し合い、改善するべきところを話し合い、サービスの質の向上を職員全員で目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3ヶ月に一回実施している。参加メンバーは地域包括支援センター、民生員、家族、利用者、職員が参加し事業所のサービスの内容や自己評価、外部評価の結果、内容を説明している。家族からの意見要望は運営に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	毎月2回、市介護保険課に来てもらい、利用者に対する支援や要望への対処について相談している。助言を貰った内容はその後の利用者への支援に活かすようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	家族の来訪時にホーム便りや金銭出納簿や行事写真などを見てもらっている。来られない家族には毎月ホーム便りと他の書類を送付している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ホームの「おだやか通信」を家族に送り行事などの参加を促して意見、要望などを引き出すようにしている。運営推進会議では家族が参加するようにして、意見を聞くようにして、管理者はそれを運営に反映している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	開設後の職員の異動は殆どない。夜勤帯は相性問題で拒否反応をおこす利用者もあるので、その時は利用者に配慮した勤務シフト組むようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所は職員が外部研修に参加しやすいように受講のための費用をバックアップしている。研修受講者による他職員への知識の伝達の仕組みがない、	○	外部研修参加者は研修報告書を書いているが、他の職員に情報を発表する機会を設けるなど、知識の共有を促す仕組みが求められる。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者および職員は事業所のサービス向上のために、地域の同業者との連携の必要性は理解しているが、まだ地域の同業者との相互交流の活動はされていない。	○	地域の同業者との情報交換会などの交流の機会を定期的に持つ等して、サービスの質向上に取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前のホーム見学の時には「ホームは安心できる場所である」と感じてもらえるように、入居者を紹介するなどして、和んで頂けるような柔軟な支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は共に過ごしている中で、人生の先輩として学ぶことや癒され支えられることが多く、一緒にたのしく過ごす喜びを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の支援の中で出来るだけ利用者の視点に立って意思や思いを尊重し、利用者に関心を払いながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のしたいことや好きなことの希望や意見をよく組み取りながら、より良く過ごせるように本人、家族、かかりつけ医とよく話し合っって介護計画は作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は一人一人の情報をきちんと把握しており毎月のモニタリングで評価し見直しをしている。急速な状態変化がある場合はその時々々の気づきや意見を尊重して臨機応変に介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族が安心して生活できるように、特別な外出支援や移送サービス等、その時々々の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診は月2回行い、訪問看護師には月2回往診を受けている。利用者の変化や健康面で気になることがあれば その都度かかりつけ医に相談して診てもらっており、家族に安心感を与えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族、かかりつけ医、職員で重度化した場合にホームで出来ること、出来ない事などをよく対応方針を話し合い、利用者や家族が安心して暮らしているように十分に話し合っている。そして文書化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を大切にし、プライドを損なわないように常に命令口調はしないように、丁寧な対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れの予定表は作られているが、押しつけでなく、利用者のその日の体調などを見ながら利用者を優先した対応をするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者から材料は配達されて職員と利用者で調理や盛り付けを一緒に行い、職員と利用者は同じものを楽しく食べている。利用者は積極的に後片付けも行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が決められているが、もっと入浴をしたい希望者には入浴時間帯も含めて臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、買い物、掃除、洗濯物片付けなど一人ひとりにあった役割を見つけている。利用者は裁縫、手芸 習字などを楽しみ、出来た作品は展示している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調、状況をみながら、毎日の外出が楽しめるように利用者の希望を聞きながら行き先を固定化しないように外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解しており利用者の安全を確保しながら日中は鍵をかけないようにしているが、職員が少ない時や統合失調症の利用者が興奮状態の時は短い時間ではあるが施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の殆どが救命講習に参加し救命装置「AED」の使い方を習得している。また職員と利用者は地域の防災訓練にも参加し緊急時の避難場所を確認しあっているが、定期的な訓練は出来ていない。	○	開設当初は避難訓練も毎月実施されていたが今年度はまだ実施されてない。何時起こるかかわからない災害を想定して避難する際の職員の役割・担当を決めて避難訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により栄養バランスのよい食事メニューを採用している。毎日の水分、食事摂取量は利用者ごとに記録されている。ウォータークーラーを設置し水分不足にならないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	書や手芸品、写真などの利用者の作品が玄関、廊下、居間に飾られている。リビングに面した中庭には四季の草花や野菜が作られ季節感が取り入れられて、利用者は居心地よく思い思いの時間を過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には手作りの表札が掲げられている。居室は使い慣れた物や家族の写真など馴染みの物が持ち込まれて、その人らしい落ち着いた居室作りが出来ている。		